

第8回 戦争を語り継ぐつどい 東京大空襲をくりぬけ 平和の思いを若者へ

早乙女勝元さん

第八回「戦争を語り継ぐつどい」が二月十三日、東京・全国教育文化会館で開かれました。「戦争を風化させないために」と、婦人民主クラブが毎年、開催しているものです。今年は早乙女勝元さん（作家、東京大空襲・戦災資料センター館長）を講師に迎え、「東京大空襲をくりぬけ、平和への思いを若者へつなぐ」と題して語っていただきました。参加者は五十人でした。



講演する早乙女勝元さん

早乙女勝元さんは、「私の昭和二十年」「やがて国土が戦場化した日々」「新憲法と戦後の原点」そして今日から明日へ」の四つのパートで話を進めました。

□……………□
わたしの昭和二十年

私は、日中戦争が始まった翌年、一九三三年三月二十六日に生まれました。昭和の前半は戦争の時代でした。従って私

は、平和というものを見ることが出来ることもできずに歳月を過ごすことになりました。

一九四五年、私が住んでいたのは東京・向島区寺島町（現墨田区東向島）、十二歳でした。高等科一年でしたが、すでに学校は閉鎖状態、学童勤労動員の一人として隅田川沿岸の大鉄鋼所で、コリアンの皆さんとトロッコ押しの仕事をしていました。重労働でしたが、一番辛かったのは空腹でした。ありとあらゆるものが配給制度になっていました。何が何でもかぼちゃを作れ」という標語、さらに「食べられる雑草のいろいろ」「食べられる虫のいろいろ」の一覧表まで、

隣組から廻ってきまして。天皇は神の子孫と教えられました。その天皇が始めた戦争です。軍隊は皇軍と言われ世界に例を見ない天皇の命令で動く軍隊でした。

一九四四年に入る頃に、ますます食料は逼迫し、一方軍事費はうなぎのぼり、国家予算に占める軍事費の割合は八五・五%に達しています。

□……………□
国土が戦場化した日

このような状況の中で、いよいよB29の登場です。日本を敗戦に導くためにアメリカが開発した長距離重爆撃機B29。東京から二百三十キロ地点の三つの島、サイパン、テニアン、グアム。この三つの島から飛び立ったB29は、帝都と呼ばれた東京を中心として、日本中の都市をターゲットにしました。

こうして一九四五年は不気味なサイレンの鳴り響く中で元日を迎えました。B29が大量の爆弾を持ってやってきて、それからは連日連夜の空襲になりました。

そして三月十日、東京大空襲のあの日、あの時

がやってきました。北風の強い寒い夜でした。米軍は日本の気象を徹底的に研究し、木造家屋が密集する東京・下町を焼くためには、春先の風が最も適切だと判断したので

□……………□
動員動員で締めた「神風」のはちまき

ほとんどの人が逃げ遅れました。空襲下、みだりに荷物を移動させたり、家を後にした人は罰せられるという防空法が、当時の国民をきつく縛っていたのです。これも大量の死者を出す大きな原因となりました。

また三月十日は陸軍記念日で土曜日でした。連休になるので学童疎開の子ともたちの多くは、家に帰ってきていました。寮生活の兄や姉も帰って



寮生活の兄や姉も帰って

寮生活の兄や姉も帰って

寮生活の兄や姉も帰って

原因になりました。三月十日の空襲には、それまでの空襲と違う特徴があります。その一つは、三百機を超える大編隊で来襲したこと、二つには、東京湾上すれすれの超低空から侵入してきたこと、第三には、B29は一機当たり六トから七ト以上のM69ナパーム製の油脂焼夷弾を満載していたこと、そして家ごと、人ごと焼き尽くす無差別爆撃を敢行したのです。

国際法違反です。しかしこの無差別爆撃の指揮者カーチス・ルメー将軍は、日本を敗戦に追い込むために、これが一番効果的な方法だと考えたのでしよう。

□……………□
おやじの「起きろ」という大声にとび起きた時には、すでに東西南北真っ赤です。リヤカーに荷物を満載して家を出ました。ありとあらゆる荷物を背負った人々、子ども

避難民が雪崩のようにあふれていました。東武亀戸線の踏切へ出たところで横丁を曲がる

と、走っていく父親と女の子が目に入りました。その時、焼夷弾がそばの電柱に突き刺さり父親の外套に火が付きました。父親は路上を回転しながら、横にいた女の子を助けることもできませんでした。

私たちは激流のように走る猛火の中を引き返し、明治通りへ出て隅田川をめざしました。その隅田川の畔で日の出を見ることができました。こんな時にも太陽は昇ってくるのです。水面は水死体、焼死体で覆われていました。目をやられていて、私にはその惨状がほとんど見えなかったのですが、遙か彼方の松屋デパートだけが、三階のあたりから黒煙を吐いていました。その煙が一週間くらい続いているのを覚えています。

□……………□
力合わせ憲法守ろう

焼け跡をさまよって帰ってきた我が家は半焼けで残っていました。三月十日の昼、大本営発表があり、ラジオが東京大空襲の惨劇を伝えました。二時間余の空襲で百万人からの人々が住居を焼かれ、負傷者約十一万人、死者はおよそ十万人。

大本営発表の中で私には承服しきれない一項目が



早乙女勝元さんを囲んで

「あなたには戦争に行きたいですか、あなたの好きな人を戦争に行かせたいですか」と問いかけて、「戦争をしたくないという声を大きくしよう」「どんどん輪を広げよう、わたし、あなた、みんな、日本の平和を守るの声を上げよう」と呼びかけています。